

<リアフレーム>

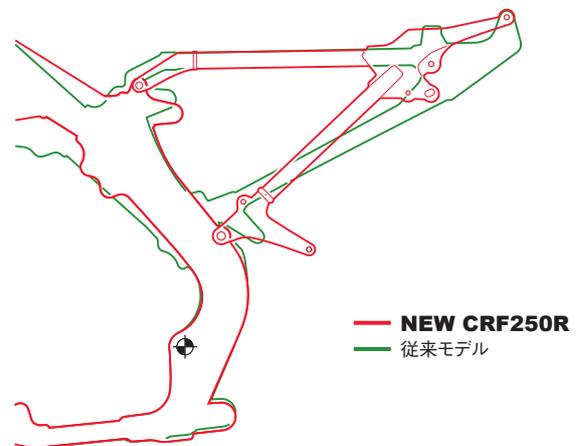
デュアルマフラー搭載を前提として設計されたリアフレームは、従来よりもリアフレーム上下パイプ間の角度を大きくとることで、各ガセット類の軽量化を図りながら、ギャップ通過時などにおける車体リア回りの左右の振られに対して十分なタフネスを確保しました。

デュアルマフラー化による左右バランス向上により、コーナリング時に、より自由に操れるスムーズなハンドリング特性と、ギャップ通過時などのさらなる安心感を獲得しました。

■リアフレーム回り



■リアフレーム形状比較



<その他 フレーム関連の進化>

●ラジエーターグリル形状、流体解析イメージ図

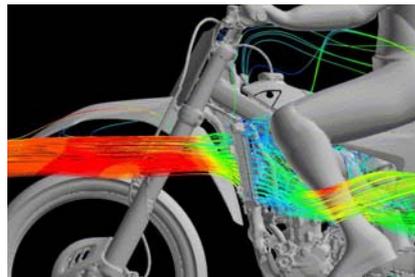
新設計されたラジエーターへの空気の流入効率を向上させるため、完成車全体の設計構想段階から、ラジエーターグリルやシュラウドの形状、さらにはラジエーター背面にあるウォーターホースの配管など周辺部品のレイアウトまでを含む流体解析\*を実施しました。今まで以上に効率よく空気を集めることができ、かつ空気が抜けやすい形状とすることで冷却性能の向上を図り、信頼性を確保しました。

\*流体解析 部品大きさや配置の違いによる走行時の空気の流れ方をコンピューターで検証する解析方法

■ラジエーターグリル形状(CG合成)



■ラジエーター流体解析イメージ図



■ラジエーターレイアウト形状比較図

